

日本記者クラブ会報

第174号
1984年
8月10日発行
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
プレスセンタービル9F 電話100
◎ 社団法人 日本記者クラブ
電話五〇三一二七二二(代)

企画委「三人委員会」で

ブレインストーミング

企画委員会(藤村邦苗委員長)はその性質上、委員の数も多く、論議も活発だ。七月の例会でも「森繁を囲む会」の成功を皮切りに、秋に迎える国・公賓や政財界要人の顔ぶれ、シリーズ研究会のテーマなどについて

て談論風発となった。

委員長はまた、高野洋(NHK解説委員)、有賀忍(時事通信社編集局総務)、伊藤光彦(毎日新聞社外信部長)の三委員に、かねて懸案となっていた企画行事の報じられかた

「ゲストサイン集」

最終選考おわる

会報委員会(深谷憲一委員長)は七月十一日、創立十五周年記念に刊行、配布する「ゲストサイン集」の最終選考を行った。

総数千余りのサインのなかから選考基準をつくってふるいをかけたのだが、作業はかなりむずかしかった。外

国人は、元首、首相、主要閣僚、著名な外交官、財界人、学者、文化人に、国内ゲストは歴代首相、主要閣僚、与野党党首・幹事長・書記長、有力財界人、文化人、芸能人など二百三十名のサインがそろったわけである。

だが初秋の締め切りギリギリまでに外国からの国・公賓や有力ゲストの来訪があれば、もちろん追加収録する。

についての基本的検討を委嘱した。

国・公賓や要人を招いての昼食会が「講演」と表現されたり、日本記者クラブでなく「プレスセンター」で内外記者と会見などと誤って報じられたことがある。

八月の企画委員会は休みなので、この「三人委員会」でこうした問題をふくむ基本的なブレインストーミングをしていただくというわけである。

事務局としてもこの検討作業に全面的なお手伝いをする事になる。が、このさい議論のワクがさらにひろがり、ゲストの選定方法、ワーキング・プレスの参加度の向上、ゲストとの質疑応答の方法などについても、新機軸の飛び出すブレインストーミングになってほしい、と考えている。

いずれにしても、この暑さに「三人委員会」まことにご苦労さま。現在進行中の十五周年記念配布の書籍「と

っておきの話」と「ゲストサイン集」、八月一日付で作成の新「会員名簿」、九月配布の新「ルールブック」の編集や校正で、クラブの楽屋(事務局)の夏もきわめて暑い。

クラブ賞推薦委員決まる

新井理事長はこのほど、日本記者クラブ賞の第四期推薦委員会委員を次の六氏に委嘱した(敬称略)。

個人D会員 内田健三(委員長)、個人D会員 入江徳郎、個人D会員 青木彰、名誉会員 村尾清一、新聞協会 村上孝止、民放連 野崎茂。委員会は、会員から推薦された候補者および同委員会が独自に推薦する候補者のすべてについて意見を添えて、選考委員会に具申する。任期は昭和六十、六十一年度の二年間。

八月一日現在の会員状況

法人会員	一四六社
基本会員	六三一人
個人会員	一、一五八人
法人・個人賛助会員	六六社 一九六人
特別賛助会員	七三人
名誉会員	一六人
計	二二二社 二、〇七四人

「とっておきの話」

両陛下もモミクチャに

戦後初の新聞展覧会



江尻 進

座で、「協会主催で全国的に新聞週間を行ってはどうか」との演説をした。

当時の総司令部の占領政策は、すべて日本政府を通じて行う間接統治の方式をとっていたなかで、新聞に対しては唯一

の例外として直接管理の政策をとる、新聞課が日本の新聞のあり方を指導する建前となっていた。言論を通じての民主主義の普及を重視していたためである。

しかし、昭和二十年八月の占領開始直後の九月十日に、「言論および新聞の自由に関する覚書」が日本政府に対する指令という形で出されたのを手始めに、四十日余りの間に矢継ぎ早に出された六つの指令が、文書化した命令のすべてであった。

それ以後は七年間の占領期間中、文書による命令が出されたことは一度もない。そのかわりに、総司令部責任者が演説とか寄稿と

いまでこそ天皇、皇后両陛下の

民衆の間へのお出ましは、日常茶飯事に近くなったが、そのきっかけのひとつになったのが、まだ日本が荒廢のなかにあった昭和二十三年十月一日から、日本橋三越で開かれた新聞展へのお出ましである。

天皇が昭和二十一年の新年の詔書で、明治以来の神格を自ら否定され、人間としての立場を明らかにされたいいわゆる「人間宣言」をきっかけに、それまでは九重の雲居の奥深くに鎮座されていた神としての天皇が、民衆の間に人間らしいお姿を初めて現されたのが、昭和二十三年六月から始まった地

方巡幸である。しかし、これとて

一般民衆の間に関わられるにはほど遠い隔たりのあるものだった。内外の新聞人の人波にもまれ、質問攻めにあうという人間らしいご経験がされたのは、新聞展へのお出ましが初体験と申せよう。

まず、新聞展を始めた経緯から説明しなければならぬ。これも、占領初期の連合軍総司令部の政策から生まれたものである。

当時の新聞課長のインボデン少佐が、日本新聞協会の創立間もない昭和二十二年初めころから、地方での講演で新聞週間の開催の必要性を説き回っていたが、翌二十三年一月の東京での第四回新聞講

かいう形で意見を述べたものが、「示唆」という形で非公式の指示となり、協会や新聞界は「自発的」にその線に沿った行動をとることにより、所期の占領政策を実現しようという形になった。日本の「行政指導」に当たるものだが、占領政策違反は軍法会議にかけられる、といった陰の重圧があるだけに、この「示唆」の重みには厳しいものがあつた。

しかし、「示唆」はいろいろな形でたびたび出されるので、二度三度と同じ「示唆」が出されるまでは、ほおかぶりで形勢観望という形に後退してきた。

新聞週間も示唆にしたがい、多少の準備は始めたものの、本格的には取り組んでいない。ところが八月中旬になって、インボデン少佐が津田正夫事務局長に、米国内閣協会が発行した新聞週間資料を手渡し「今年には自分のかねての『示唆』をぜひ実行するように」との強い要請となってきた。

しかも新聞週間の期日は、米国内閣に合せて十月一日から一週間と



新聞展で外人記者団に囲まれる両陛下（正面の黒服の後ろ姿は通訳をする津田事務局長，天皇陛下の背後は筆者）

設定されたので、準備期間は四十日しかない。何かわけの分からぬままに新聞大会、新聞展、記事資料の配布など、編集部が中心になって、市政会館七階の机の上に幾晩も泊まり込みで、ハンゴウ飯といった準備作業となった。

新聞展の計画に手をつけたものの、東京中を探しても会場がない。電通を通じて三越に交渉してもらったら、「七十坪ぐらいなら何とかしましょう」との返事である。当時売り場は三階までで、四

階以上は戦時中からの統制団体などが残っていたのが、徐々に立ちのいていた時代である。

そのうちに津田局長が友人の宮内庁次長林敬三氏を通じて、天皇、皇后両陛下のお出ましを懇請していたところ、「新聞なら民衆を代表するものだからよからう」というので、ご視察が決まった。

これを三越に伝えたら、急に「四階に三百坪空けますから」ということになり、壁面を埋めるのに大慌ての騒動となった。当時の三越

本店の宣伝課長が後に社長になった岡田茂氏で、その目先の利いたすばしっこさに驚いた。

当時皇后さまは着られる着物が無いとのことで、ためらっておられるといった話も伝わってきたが、「どうもおそろいで」ということで、ご無理を願う有様だった。

お出ましを願うの

は、開場五日目の十月五日の開店の午前九時から一時間というこゝとになった。まず十畳ほどの狭い三階の会議室で、馬場恒吾協会会長をはじめとする数名の代表にあいさつされ、四階の会場に上られた。迎える方は無理して整えたモーニング。その中で、水虫で足をほらしていた筆者は、モーニングの足元はスキー靴といういでたちである。

しかし天皇は、これまたいかにも疲れ切ったグレーの背広に、皇后さまは薄紫に染め直したとみられる単色の和服に簡単な帯という「宮中服」と称した服装で、物不足は宮中にも及んでいるという印象だった。各壁面の前には、各社の分担製作者が立ち説明に当たったが、外国通信社の壁面もあったので、支局長がその前に立って説明に当たった。

今日ほどではないが、内外の取材記者も特定の位置に控えていた。事前にはマイクとインタビュアーは厳禁とのきついお達しだったが、両陛下が外国通信社の壁面に

近付かれたところから、外人記者団にワーツと取り囲まれ、身動きができない。皇后さまは天皇とはぐれ、随行していた筆者は押しに押されて、あわや皇后さまの背後から密着状態、きめの細かい美しいお肌が鼻先に迫った。

禁止のインタビュアーも津田局長などの通訳で行われたが、映画のライトと人いきれで両陛下とも玉の汗だが、さすが王者の風格で、ぬぐわれようともなさらなかった。

後でうかがうと、陛下がこんなに人間の間にもまれた「開放的な」経験は初めてなので、大変愉快だったとの感想だったとのことだが、外電の反響も大変よかったというので、思わぬ外交的效果もあげる結果になった。警戒が厳重になった今日では考えられぬ、戦後の混とんの生んだ時代風景の一端まである。

えじり すずむ氏略歴 明治四十一年福島県出身。七十五歳。東京大学法学部卒。昭和七年電通入社。同盟通信、共同通信を経て、二十二年日本新聞協会へ。編集部長、総務部長などを務め、四十二年理事・事務局長。五十年専務理事となり、五十八年六月から顧問に。日本記者クラブ創立の四十四年から五十八年九月まで理事を務める。

東欧四か国取材駆け歩き記

— 役立ったプレスセンター —



石丸 和人

三週間余り、東西欧州八か国を取
材して回った。中心は、東独、チェ
コ、ハンガリー、ポーランドの東欧
四か国。

外国を知るといふのは難しい。以
前、毎日新聞時代にワシントン、ニ
ューヨークにかなり長期間特派員と
して常駐したが、それでもアメリカ
の一面しかみていないとの思いが強
く残っている。それを極く短期間の
取材でポイントをつかむには方法は一
つしかない。それぞれの国で、現
地の新聞記者や常駐の外国人特派員
といった優秀なジャーナリストにで
きるだけ多く会うことである。新聞
記者は専門的に浅い面があることは
否定できないが、その国の状態を総
合的にとらえる点では、うぬぼれか

もしれないが一般的にすぐれている
というのが、長年、国際報道にたず
さわって得た結論だからである。も
ちろん、各国とも、例えばハンガリ
ーの農場取材といった場合には、政
府や専門家に会い、また各国に駐在
する日本大使館やジエトロの情報や
分析も貴重なため時間の許す限り足
を運んだが、取材の対象は主として
ジャーナリストであった。

東欧の場合、日本人特派員や西側
の記者にも会ったが、主体は現地の
記者だった。在京の各国大使館にビ
ザを申請する時、プレス・アタッシ
ェに、こちらの趣旨を述べ、東独の
場合には、党機関紙のノイエス・ド
イチュラントの記者といった具合に
会見できるよう要請した。

各国にはそれぞ
れ外国人ジャーナ
リストの取材を援
助する政府機関が
あり、まずこの機
関を訪ねるようい
われた。東独の場
合は、東ベルリン
にある「国際プレ
スセンター（IP
Z）」、チェコはプラハの「外国人ジ
ャーナリストのための情報センタ
ー」、ハンガリーはブダペストの「外
国人ジャーナリストのための情報
局」、ポーランドは「インタープレ
ス」。登録新聞記者証を出してくれ
たのが東独とチェコ。いずれも取材
が終われば返納が義務づけられてい
たが、特にチェコの場合、記者証——
といっても一枚の紙片だが——に
「これはチェコ社会主義共和国の国
有財産であり」と書かれていたのが
印象的だった。

一時ごろ行きたいというノイエス
・ドイチュラントの論説委員とアポ
イントメントがとってあるので午前
八時までは来てくれという。タク
シーで行きたいというと、Uバーン
(地下鉄)の方が便利だと教えてく
れる。

翌日、国境地点での入国審査で時
間をくうことを考えて、午前六時に
西ベルリンのホテルを出発、重いス
ーツケースを引きながら東ベルリン
に入る。フリードリッヒ街駅で降
り、タクシーを拾い、「国際プレス
センター」というが知っている者が
いない。運転手が住所を頼りに探し
ながら行ってくれる。センターは入
口の看板は小さいが、中には広い会
見室やレストランなどがあり堂々と
していた。

センターが一日二百マルク(約一
万七千二百円)で契約してくれた、
通訳の若いアンゲラ・フィドラーさ
んの案内で、取材を始める。彼女は、
日本に来たことはないが、フンボル
ト大学で日本語を専攻したという。
最初に訪れたのがフランツ・メーリ
ング広場にある社会主義統一党機関
紙ノイエス・ドイチュラント。八階



ウルバン ポーランド政府スポークスマン(中央)の
定例記者会見。質疑応答は予想以上に活発だった。

建ての堂々たる建物である。赤地に白抜きドイツ語で「ドイツ民主共和国の三十五周年に当たり、第十回党大会の爽やかなコースに乗ってさらに前進しよう」という横幕が前面に張られていた。

東西ドイツ関係が専門だという論説委員ヘルベルト・アンナス記者に、同記者の執務室(個室)で会う。別室には専任の女性秘書がおり、日本の論説委員クラスでは考えられない待遇である。インタビュアーではなくインフォメーション・トークスということで通訳を入れて二時間、欧州情勢と東西ドイツ関係について東独の見方をたっぷり聞く。次いで

カール・リープクネヒト街にある国際政治、経済の専門誌ホリツォントを訪ねる。

ブラハのバリスカ通りにある「外国人ジャーナリストのための情報センター」は、東独と比べ小じんまりしていた。ただ看板は英語で書いてあった。センターが用意してくれた通訳も、カレル大学で英語を勉強したというかわいいたカ・ビレトバさん。この所長のイージ・シュビツ氏も、センターの紹介で会ったチェコスロバキア・ジャーナリスト連盟のマルツェル・ノルジ書記長らも、みなチェコを取り巻く諸問題についての質問——中には反政府活動などもあったが——に熱心に答えてくれ、チェコについての暗いイメージが消えたものだった。

一番積極的に用意をして待っていてくれたのがハンガリー。ここではブダペストのブダ地区にある「外国人ジャーナリストのための情報局」がアレンジしてくれ、まずハンガリーのテレビのガボル・メンツェル国際部長に会い、ついで若い大学卒業生が対象の週刊誌「エトレット」(アイデアの意味)を訪ねた。その後

ハンガリー・ジャーナリスト協会の国際部長ゾルタン・アルドット博士の司会で、党機関紙ネブサバシャグ、政府機関紙マジャール・ヒルラップ、世界経済新聞のベテラン記者による一種のパネル・ディスカッションを二時間余りにわたって聞いてくれるなど、ハンガリー情勢を知り上で大いに役立った。

通訳も案内役の日本語のできるユディット・バルガ博士(女性)がやってくれた。「外国人ジャーナリストのための情報局」のフェレンツ・エレス局長は共産政権ができてから間もなくブリュッセルに亡命、ハンガリー動乱後帰国した人。またマジャール・ヒルラップのデネス・ジャペイ記者は、党員ではないことをしきりに強調していた。

最後のワルシャワは、文化放送の松本照男特派員にオペラ劇場の裏にあるインタープレスのプレスセンターに案内してもらったが、東京の大使館から何の連絡も来ていないといいながらも、係のイザベラ・ソコルスカさん(女性)は英語もうまくてきばきとスケジュールを立ててくれた。ポーランド通信のワシントン

支局長だったインタプレスのスタニスラフ・グオンビンスキー編集局長に会い、またウルバン政府スポークスマンが週一回火曜日に行う定例記者会見に出席することもできた。

ウルバン氏の会見は、プレスセンターで行われたが、英語の同時通訳をイヤホンで聞くことができ、正午から約一時間、英米仏など西欧各国の記者の容赦ない質問にも、米國務省のブリーフィング並みに積極的に答え、ポーランドの隠れた素顔をみせてくれた。

十三日間の東欧訪問を終え、ワルシャワからロンドンに向かった時、短期間にしては多くの人に会い、東欧について多くのことを知った思いで、東欧の同僚たちに感謝したのだった。

いしまる かずと氏略歴 昭和三年広島県呉市出身。五十六歳。東京大学文学部独文科卒。二十八年毎日新聞入社。社会部を経て三十一年外信部。三十五年から四十一年までワシントン支局、ニューヨーク支局勤務。四十六年から五十二年ワシントン支局長。五十二年十二月から論説委員。五十八年二月定年退職。同年三月から山形新聞論説委員(東京駐在)。現在、クラブ企画委員

全斗煥大統領の訪日

ワーキングプレス

ソウルの有力朝刊紙「朝鮮日報」には、金大中さんという政治部長がいる。あの元大統領候補の金大中氏と同名。政治部記者としての駆け出し時代、金大中番もした。金大中元大統領候補が朴正熙大統領と激しい選挙戦を展開した七一年の大統領選挙の際には、最初から最後まで金大中大統領候補について回った。政治資金の集め方も取材した。

金大中政治部長を含め、当時の金大中番記者が語る政治家家としての金大中氏は、駆け引きと腹芸にたけ、派閥争いと野党の主導権争い、さらには権力闘争への野心をあらわにする生身の政治家でもあった。

金大中政治部長は、最近の日本での韓国ブームと全斗煥大統領の訪日を見つめる韓国人の感情と受けとめ方について、七月末の朝鮮日報紙上で次のように触れた。

「韓国は対日問題でいま重大な転換期にさしかかっている。いつまでわれわれは日本を斜視し忌みきらうのか、そうしているうちに、また日本に制圧され、不幸な結果

ハンゲル世代は積極的支持

重村 智 計

を招くことになる——という主張が一方にある。また日本が誠意を示し、過去の罪過を認め、正そうとしない限り、われわれは永久に日本と席を同じくするわけにはいかない——といったもう一つの主張もある。この二つの主張を調和させる第三の道こそ、われわれにとって重要な転換線になる」

金大中政治部長が指摘したこの二つの相反する主張は、全斗煥大

統領訪日をめぐる韓国内の意見対立を浮き彫りにしたものと見えよう。全斗煥大統領の訪日問題が日本の新聞で報じられた今年の初めごろから、韓国の政治記者の友人の多くは、「大統領の訪日は、日韓両国の利益につながるだろうか」と異口同音にきいてきた。この質問の背景には、二つの意味がある。韓国側からすれば、反日感情がなお国民の民族意識の根底に

ある、そうした状況を知りながら訪日した場合、国民の一部に残る反日感情を納得させるだけの成果がなければならぬ。日本には全大統領にそれだけの「おみやげ」を準備する用意があるのかというのだった。

この「おみやげ」の中には、過去の植民地支配に対する天皇の「遺憾の意の表明」をはじめ、日韓協力問題についての日本側の譲歩も期待されている。ま

た全大統領訪日後の自民党総裁選で、中曽根首相が再選されなかったら、見通しの悪さを批判されるとの指摘もあった。

こうした対日懐疑論に対して、全大統領の訪日を進めようとする人々は、「韓国で考えられているような日本と、現実の日本は違う。いつまで過去にこだわるのか、韓国側にとって問題があったではないか」と主張した。

この訪日積極論者の

多くは、独立後に民族教育を受けた植民地時代を知らない「ハンゲル世代」であるという。「日本から学ぶことは多い」「歴史の責任は被害者の側にもある」と、自ら言うほどの自信と余裕をこの世代は持ち始めたということになる。

全大統領の訪日を七月上旬に初めて報じた韓国のマスコミは、この韓国内の意見の対立には全く触れず、「日韓新時代」と「過去にこだわり続けるよりも、未来の建設を」などと強調した。韓国国民は日本の歴史の清算の仕方と、全斗煥大統領訪日後の日本の朝鮮半島外交の行方に関心を寄せている。

(しげむら としみつ 毎日新聞ソウル特派員)



安倍・李源京の外相会談を報じる朝鮮日報 (7月8日)

テレオリンピック

ワーキングプレス

オリンピック大会史上初めて「民営」で行われたために、すべてが金によって動く、金権万能、商業主義に毒された大会といわれ、ソビエトをはじめ共産圏諸国がボイコットしたので片肺オリンピックなどと呼ばれた第二十三回オリンピック大会は、五十二年ぶりにロサンゼルスに戻り、史上最多の一四〇か国が参加して開幕し、連日、世界の若者達が熱い闘いを展開している。

ロサンゼルス大会そのものに対しては様々の評価があることは事実であるが、だれもが異論をさしはさまないのは、この大会がこれまでになかったテレビオリンピックになったという点であろう。テレビオリンピックが実質的にスタートしたのは、昭和三十九年の東京大会の開会式の衛星中継だった。神秘の宇宙を通して全世界に送られた映像の素晴らしさ、鮮やかなカラーは、見た人々に夢を見ているような思いをさせたのであった。

それから二十年、今や世界各地の出来事が瞬時にして伝えられる

ことが日常茶飯事のことになり、オリンピックは、その中でも格好な材料であるといえよう。

オリンピック大会のテレビ映像は、その大会の組織委員会が指定する地元の放送機関―ホスト放送機関と呼ぶ―が映像を制作し、全世界の放送権を得ている国々に分配する仕組みになっている。今大会の場合、アメリカ放送株式会社（ABC）がホスト放送機関であ

NHK・民放

合同チームの奮闘

牧野

り、その映像を受けるのがこれまで史上最多の一四六か国に及んでいる。ちなみにその放送権料のトータルは約二億八、四〇〇万ドル（約六五〇億円）となっている。

ロサンゼルス市を中心に半径一〇〇キロ弱にも及ぶ広い地区（ほぼ関東平野の全域）に広がる三〇会場で行われる二一競技のほとんどの映像を制作するABCは、それをハリウッドにある国際放送セ

ンターで各国に分配する。各国放送局の多くは、各競技場にアナウンサーをさし向けて、自国の視聴者向けのアナウンサーをつけ、ABCの分配する映像にミックスして、放送衛星にのせて自国に伝送するのである。

日本の放送界は、ロサンゼルス大会を放送しようとするに当たって、大会ごとに、年ごとに高騰する放送権料、番組制作経費を考へ、お互いに競り合い、つり上げる愚を避けようとジャパンプールを結成し、共同で交渉し、共同で番組作りをしようという事になった。

呂

現在、日本向けの番組を作るためにロサンゼルスへ派遣されているジャパンプールの要員八三名も、NHK五三名、民放各社三名で構成され、混然一体で活躍している。

現地から送られてくる素材は、民放各社が時間的に優先して単独放送する種目が一部あるが、その他すべて各局平等に放送することができる。その結果としてNHK

のテレビに民放のアナウンサーの声が、民放のブラウン管からNHKのアナウンサーが流れることがある。

また、送られてくる素材を各局が自由に料理し、味つけをして、それぞれ特長のある番組を作れるように、できるだけ多くの番組を日本まで送れるよう、一つの衛星回線に、同時に二つの画面を送る技術（二画面伝送）を開発した。

また、今年の四月から年間を通じてNHKと在京民放五社が共同で専用使用している太平洋予備衛星を期間中オリンピック専用に使役できる契約をして、伝送量を飛躍的に増すことになった。

前々回のモントリオール大会時に比べると約五倍の二四三時間の映像が送られてきて、日本のお茶の間に飛び込んでいくことになった。

（まきのの）ながし NHKオリンピック放送実施本部

颯爽！三陸鉄道

ワーキングプレス

岩手県の陸中海岸に四月一日、全国初の第三セクターで運営する三陸鉄道が開業して四か月。アイボリーホワイトの地に赤と青のストライプも鮮やかな車両は、きょうも真夏の太陽を浴びてリアス式海岸を快走している。明治以来の沿岸住民「百年の悲願」だった三陸縦貫鉄道。国鉄赤字ローカル線問題と、途中の未開通部分の建設促進のため、「やむにやまれぬ選択」(中村直知事)で実現したが、県内外の観光客を中心に人気は上々、予想外の頑張りをみせている。

三陸鉄道は、北リアス線(久慈—宮古、七十一キロ)と南リアス線(釜石—盛、三六・六キロ)の二線。五十五年施行の国鉄再建法に基づいて決定した赤字ローカル線の宮古、久慈、盛の三線と未開通部分の田老—普代間、釜石—吉浜間をつないで完成した。

同鉄道を経営する三陸鉄道株式会社(社長・中村知事)は、県と市町村、漁協など民間出資による資本金三億円の第三セクター。国鉄OBを含む九十七人の従業員と

カラフルな十六両の新車両で好調な営業を続けている。

沿線のなかで、これまで唯一鉄道がなかった田野畑村(北リアス線)は、三鉄開業により住民の利便が飛躍的に向上した。同村一ノ渡の農業島山ミナさん(七三)は「二十歳のとき、隣村の野田から馬に揺られて嫁にきた。実家へはこれまではなかなか帰れなかったが、これからは列車で気軽に行ける」と顔をほころばせる。

海岸の幹線目指し

さまざまな戦略構想

下田 勉

同村には、宮沢賢治の童話から名称をつけたカルボナード島越とカンパネラ田野畑の両駅がある。島越の「民間駅長」幕内茂也さん(五二)は「村からの利用客は地元駅にお金を落とすよう切符を往復で買ってくれる」と「マイ・レール」意識の高まりを話す。駅併設のレストランには「両手(洋食)で一度食べてみたかった」という漁民も目立ち、一種のカルチャーショックも起きている。

三鉄によると、四、六月の三か月間の

乗降客数は南、北リアス線合わせて四十二万人で、収入は二億一千四百万円。乗降客は、駅員を配置している久慈、宮古、釜石、盛の両端駅だけの集計で、予想のほぼ半数。しかし、「中間の各駅間利用が多く、トータルの乗降客は予想通りの数字に達するはず」とみている。収入はほぼ計画通り。これに、記念切符や列車内のジュース類自販機の売り上げ、内部資金の利息などの雑収入が加わるため、実際には計画を上回り、初年度から黒字が出そうという。

もともと生活路線としての必要性から生まれた三鉄だが、意外だったのは観光客からの人気。この三か月間に七百七十団体、三万四千五百人が利用、東北はもとより関東、関西からも「一度は乗ってみたい」と旅行団が殺到している。

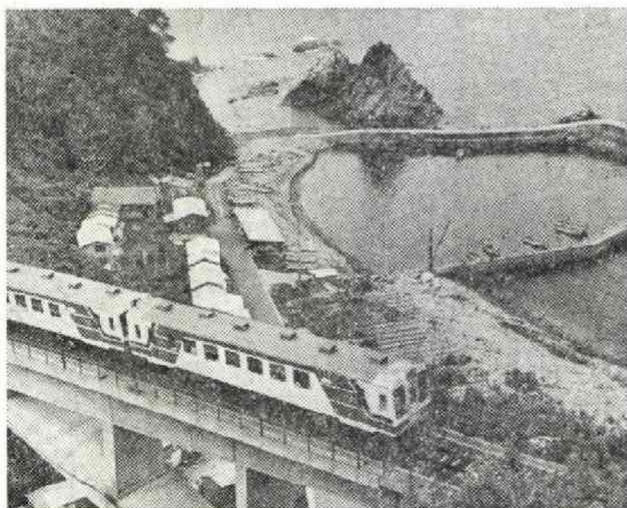
三鉄の堀籠明専務は「全国初のケースとして新聞、テレビ、雑誌が取り上げ、PRしてくれたおかげ」と話すが、メルヘン調のしゃれた駅舎、丸形や三角形の変型切符など豊富な誘客アイデアも功を奏しているといえよう。

今のところ順調に走り出している

三鉄だが、観光のオフシーズンや「珍しさ」が薄れる来年以降に不安を抱く関係者は少なくない。このため、中村知事は南、北リアス線にはさまざまな国鉄山田線(釜石—宮古、五十五キロ)の三鉄引き受け構想を打ち出し、七月上旬に来県した仁杉国鉄総裁も「国鉄線によって途切れているのは異様だ」と理解を示した。

久慈から盛までの一貫運営こそが沿岸住民の悲願。三鉄は海岸の幹線を目指し、さまざまな戦略に今、果敢に挑んでいる。

(しもだ つとむ 岩手日報社報道部)



ニューズレポート6・00



一番早い定時全国ニュースを最大の特徴とするフジテレビの『ニューズレポート6・00』は五十三年十月にスタートした。この四月には、逸見政孝さん（当クラブ基本会員）が山川千秋さんの後を引き継ぎ、三代目のキャスターに就任した。

逸見会員は三月まで『ニューズレポート6・30』のキャスターを担当していた。その前はワイドショーの司会や、スポーツ中継など多彩な経験の持ち主。

「特に『6・30』を担当した五年半の間に体験した、五千人余りの方々とインタビューカーから得たものはかけがえない財産になりました」と逸見会員。また、ワイドショー時代に得た、視聴者と一緒に考えるという姿勢は今も持ち続けているともいう。

「いわば、キャスターは番組の顔ですから、人が変われば番組のイメージも変わってきます」と沢雄二記者。

キャスター

・アンド・レポーター」というのが沢さんの逸見評だが、「外に出て視聴者の中で考え、自分の言葉でしゃべるように心がけています」とご本人も言う。

スタジオ訪問

四月から逸見さんが

三代目のキャスターに

現場へ飛びキャスターを象徴しているのがポケットベル。いつでもどこでも社と連絡をとり、現場へ駆けつけることができるようにいつも持ち歩いている。つい先日、秦野前法務大臣とのインタビュー予定を出社途中、このポケットベルの呼び出しで知らされたそうだ。

こういった逸見会員のキャラクターを最大限に生かすため、スタジオ内のレイアウトも模様変えした。キャスターがふり返って話のできる位置に、スポーツニュース担当の河村・佐野さんと、天気予報担当の女性を配置し、国内・外からの中継用のモニターテレビも大きなものに変えた。スタジオでの「会話」を重視し

たためだ。

内容の面でも、いくつかの新しい試みが採り入れられている。まず「キャッツアイ」と呼ばれるコーナー。一分間、言葉抜きで映像だけを流すもの。「いわば、絵で見るニュースです。衝撃的なもの、逆にほのぼのとしたものなど、言葉で語るより効果的な場合もあります」と沢さん。さらに、「アンサーチャー」というアンケート・システムを使い、直接、リアルタイムで視聴者に意見や感想を求められることもある。

番組作りは九時半の編集会議から始まる。その日の項目を決め、全体の組み立てを行う。逸見さんが取材に出るかどうか、この時に決まる。午後三時に再度、編集会議が開かれる。取材に出ない場合、逸見さんはこの間資料に目を通し、下調べをする。この会議で、ほぼ全体の組み立てが終了する。

五時を過ぎる頃、地下一階にある報道センターに活気があふれる。電話が鳴り、連絡が飛びかい、人の動きも激しくなる。フロアEの中ほどにある丸テ

ーブルを前にして、逸見さんは時計を気にする。テーブルの上にはスケジュール表と原稿を入れる箱があるが、まだカラッポ。「今日もおい込みになりそうですよ」と逸見さんは笑うが、緊張感の高まりは伝わってくる。

スケジュール表は何度か訂正が加えられる。五時二十分——まだ箱の中には原稿はない。さらにもう一度、スケジュールの訂正が行われ、二十七分、ようやく中村編集長が一本目の原稿を箱に入れる。その横では、カメラスタッフの最終打ち合わせが行われる。箱の中には次々と原稿が重ねられ、逸見さんはペンとストップウォッチを手に目を通していく。五時五十八分（本番二分前）最終原稿ができあがるのも、どかしく、逸見さんはスタジオへの階段を急ぐ。そして本番。

「時には、初見で原稿を読むことでもありますし、本番中に原稿が入ったリスケジュールが変わることもあります。それをカバーするのが、スタッフとの間の「アウンの呼吸」というわけです」と逸見さん。エレクトロニクスを駆使した最新技術と人間臭い「アウンの呼吸」、この二つが相まって番組は作られていく。

（河野 聡）

先月のクラブゲスト

塩野 七生 評論家



講演はニガ手で、よほど高額な謝礼の場合か、読者のための特別な機会以外は

引き受けないのだそうだが、「皆さんとは同僚みたいなものなので」と万年筆の記念品だけで出てきてくれた。

過去に栄光の頂点を経験してしまつた、民族、国家の持つ、どうにもならない悲喜劇模様を、イタリア在住者の目で観察し、紹介する。【三日(火) 研究会「手のつけられない問題」(Ⅷ) 司会 中沢道明企画委員 出席 六七人】

ローラン ファビウス フランス産業・研究相

六月二十九日付のクラブからの会合案内には「三十七歳のファビウス大臣は現閣僚中最年少ですが、次期首相候補の一人として注目されている



ます」。案内にいつわりなく(？)クラブでの昼食会から七日後に、新首相に就任した。

昼食会では、産業体制の一大変革のため、①石炭、鉄鋼等伝統産業の再編②新技術、情報、エレクトロニクス等新分野の拡充③新産業を支える中等教育改革(十万台のマイクロコンピュータ導入)と産業発展を優先する金融・財政政策④労使関係の改善が必要とし、徐々に条件が整いつつあるとしたが、果たして見事ミッテラン大統領の切り札となるか。【二〇日(火) 昼食会 司会 友田錫企画委員 通訳 野水康夫 出席 六九人】

吉富 勝 経済企画庁経済研究所次長



米国による非ケインジアン的政策が、皮肉にもケインズ政策として機能し、世界経済を活性化させ、日本

に大幅な経常収支の黒字をもたらしているが、来年の後半からは景気が失速し、高金利だけが残る心配もあるという。なお、吉富氏は八月二十一日からOECD一般経済問題担当局長へ。【二六日(月) シリーズ研究会「世界経済の課題」(Ⅷ) 司会 平田真巳企画委員 出席 六九人】
正村 史朗 総合科学研究所所長
【二六日(月) 研究会「手のつけられない問題」(Ⅷ) 地震の話 司会 石山四郎企画委員 出席 二五人】

森繁 久弥 俳優



会場の入口で立ちどまり、静かに軽なお辞儀をすると、温い拍手が起こる。早大を中退し、昭和十一年東宝劇団へ入り、ロッパ一座を経て、十四年満州電々入社、アナウンサーに転向。戦後、ヤミ屋で一苦勞の経験も。七十一歳の現在も、映画、テレビ、舞台の第一線で毅然と、しかもユーモアを忘れず活躍。そうした存在感の持つ力が引き寄せた拍手であろう。

話術の達人はまた人生の達人でもあり、感動はそこからきている。ゲストに呼応し、出席者一人一人が人間らしく輝いて見えた、これまでにない会合だった。【二七日(火) 懇談会 司会 藤村邦苗企画委員長 出席 六九人】

アマドウ マハタール ムボウ ユネスコ事務局長



当初、事務局長は英語で話すという事で、英語の通訳を用意していたが、その日になって仏語に変更。

だが、なんといっても焦点は米国の脱退問題なので、英語しか分からない出席者も多く、実際は三か国語での記者会見となった。英語から仏語への変更にも、ムボウ事務局長のワンマンぶりや現在おかれている立場の難しさを見た。【二八日(水) 記者会見 司会 石丸和人企画委員 通訳 千葉景弘、池田薫 出席 六一人】

バン レネップ OECD事務総長
九月に十五年務めた事務総長を退任するバン・レネップ氏。同氏はこれまで三回クラブで会見したが、この日もこれまで同様個人的感慨は一切さしはさまず、謹厳剛直の人らしい「さよなら会見」となった。【二五日(水) 記者会見 司会 鈴木幸夫企画委員 通訳 田草川美沙子 出席 四三人】



新関 欽哉 日本国際問題研究所理事長
「現在のソ連外交はグロムイコ、チェルネンコ、ウスチノフによる三人四脚体制です。四本足で立つ三人は、いわば動きのとれないトロイカ体制であり、新展開はムリ。【二六日(木) 研究会「ソ連—七の迷題と意図」(Ⅷ) 司会 伊藤光彦企画委員 出席 六七人】



【二六日(木) 研究会「ソ連—七の迷題と意図」(Ⅷ) 司会 伊藤光彦企画委員 出席 六七人】

紹介合会

2日▽サミット・プ
ール取材検討会(T
BS 水野義会員)
3日▽東北・北海道
九紙懇親会(岩手日
報 東島末起会員)
▽全国新聞東京支社
長会総会(秋田魁 森可昭会員) 5
日▽座談会「今後の政局」河本経企庁
長官、佐々木民社党委員長(神戸 塚
本健一会員) 6日▽在京九社編集局
長会(協会 宝子山幸充会員) ▽ハ
イレベル貿易使節団記者会見―団長
R・H・V・ダグラス氏(ウェストバツ
ク・バンキング・コーポレーション商
工金融担当総支配人)(豪州大使館 ジ
エフ・ヒスコック会員) ▽竹内都郎さ
んを囲む会(朝日放 岡村黎明会員)
7日▽日本エッセイストクラブ賞贈呈
式(殿木圭一会員) 9日▽全国ゲー
トボール大会記者会見(サンケイ 石
田博会員) 10日▽日米大ロケット博
記者会見(サンケイ 石田博会員)
11日▽日工業人クラブ発足総会・パ
ーティー(日本工業 山崎定世会員)
▽第七回ASEAN記者研修計画歓送
会(協会 阪田秀会員) 12日▽愛媛
クラブ例会(愛媛 堀定省会員) ▽
米国新聞製作事情視察報告会(協会

桂敬一会員) ▽CONPTITOU
R全参加者再会パーティー(安養寺敏
郎会員) 13日▽工務十一社会(京都
尾関史郎会員) 14日▽日本新聞学会
理事会・懇親会(内川芳美会員) 16
日▽東京タイムズ書道会総会(徳間康
快会員) ▽宮永真弓さん(宮崎日日
新聞会長) 出版記念会(朝日 堀越作
治会員) 17日▽徳島クラブ懇親会
(徳島 谷田匡会員) 18日▽十七社
会、二十八社会(熊日 森茂会員)
▽駿島有美子「日本の抒情」LP制作
発表記者会見(サンケイ 石田博会
員) ▽大畑忠義さんを慰労する会
(時事 原野和夫会員) 19日▽「新
聞広告論文感想文」第一次審査委員
(協会 権田萬治会員) ▽民間放送
地方局懇談会(民放連 泉長人会員)
20日▽フルブライト同窓会によるヒッ
チコック氏送別会(FPC 河村欣二
会員) 21日▽マスコミ研究会(内川
芳美会員) 23日▽英字紙編集者会議
(朝日イブ 海老坪勇会員) 24日▽ゴ
ルフ世界選手権大会記者発表(NTV
高木盛久会員) 25日▽加藤好雄さん
を送る会(NHK 山口秀夫会員)
会員がクラブ施設を利用して行っ
た会合の主なものです。七月の総
回数は一一二回でした。

第53回会報委員会

昭和59年7月11日(水)
日本記者クラブ応接室

十五周年記念事業である「とっておきの話」と「ゲストサイン集」の作成作業の進行について、担当の井出委員から報告があり、意見を交換した。「とっておきの話」には八月号掲載の江尻進会員の原稿までを収録することを決めた。

会報の編集については、「ワーキングプレス」の寄稿者名にもカナをつけた方がよいのではないかと、との意見があり、八月号から寄稿者名にカナルビをふることにした。

出席 深谷委員長。井出、斎藤の各委員。

第84回会員資格委員会

昭和59年7月17日(火)
日本記者クラブ小会議室

八月一日付の会員入退会を審議し、理事会へ答申した。

前回に引き続き法人賛助会員の入会条件について検討、意見を交換した。

事務局から毎日新聞社(赤松大麓氏↓小池唯夫氏)と共同通信社(亀山旭氏↓林雄一郎氏)の委員の交代を報告した。出席 中川、小池、山崎、林、上野、埜邑の各委員。

第114回企画委員会

昭和59年7月18日(水)
日本記者クラブ宴会場

①八月、九月のクラブゲストの選考について意見を交換した。その結果、安倍晋太郎外相、後藤田正晴総務庁長官、宮沢喜一元外相、山口光秀大蔵事務次官らを招くように折衝することになった。

②九月に訪日予定されている全斗煥大統領の記者会見の可能性について、藤村委員長から次のような報告と提案があり、これを承認した。

「クラブからの招請状に対して、まだ回答はない。いずれにしてもセキユリテイの問題が大きいため、どうなるか見通しがたかないが、鋭意努力中。八月は委員会が休みなので、この件は原則的に理事長、企画委員長一任としてほしい」

③クラブ主催の昼食会、記者会見等の報道のされ方にバラつきが目立つので、高野、有賀、伊藤の三委員で、今夏、検討作業をすることを決めた。

④原書房から申し出のあった、シリーズ研究会「軍事技術」の出版の件を承認した。

出席 藤村委員長。伊藤、一木、友田、広瀬、有賀、石丸、高野、水野、武藤、鈴木、中沢の各委員。

プロフィール

八月一日付入会の個人D会員、法人・個人
賛助会員、特別賛助会員の方々です。

◆ゴルフの会◇

第40回ゴルフ会は七月二十日、東京よみうりCCCで行われた。

近來まれにみる大量初参加七人を加え二十五人が参加した。梅雨あけ十日は天候の安定をいう言葉だが、この日は強烈な日差しに汗を流したり、一天にわかにかき曇ったりの荒れ模様。しかし、ゴルフのほうは実力安定組が上位入賞を果たした。

優勝・太田博夫(D)NET73、二位・小林千枝子(山梨日日)76、三位・鹿島茂男(日本工業)77、BB・秋山頼吉(D)、BG・鹿島茂男、NP・藤吉保徳(西日本)、豊島伸郎(佐賀)、本田路威(朝日イブ)、石丸和人(山形)。

前回四月の小金井CCCで二、三位入賞者が、そのまま順位を一つずつあげて優勝と二位に。ハンデをあげての連続入賞はまさに快挙でありました。

また、今回は第40回大会ということでハーフ40にもっとも近いスコアを出した鹿島さんと、バーディーを二度も出しながら59で回った某氏に特別賞が贈られた。この某氏も前回到続いて特別賞を連続受賞した。

次回第41回のゴルフ会は十月二十六日(金)、山梨県の都留CCCで行われる予定。

●囲碁の会○

七月二十一日の例会は、参加二十二二人、総対局数五十局。成績優秀者は次の

とおり。

堀川敏雄五段(D)、大日向一郎三段(日経映画)、山崎政人四段(D)、小野盛四郎二級(D)。

この結果、大日向三段は四段に昇段した。

また、前月の大会でのクラス別優勝者による総合優勝決定戦第一戦は、山崎政人四段が山田健吉初段(ABC協会)を下した。山崎四段と安原和雄五段(毎日)で総合優勝を争うことになった。

八月は夏休み、九月の例会は二十九日(土)午後一時から。

初めの方大歓迎。事務局へお申し込みください。

レストランメニュー

(以下のグランドメニューのほか、二日毎に替わるランチメニュー(洋食コース3種類、和食2種類)および4種類の特別一品料理、果物を用意しております)

APPETIZER

アラスカ特製フォアグラ	800円
小海老のカクテル	600円

鮭の燻製	900円
蟹のつめバター焼	800円

SOUP

ポタージュ	250円
オニオングラタン	350円

コンソメ	250円
コーンチャウダー	400円

SEA-FOOD

車海老のフライ	800円
鮭の網焼	700円
舌平目のバター焼	700円

車海老トマトソース煮	800円
舌平目ホーレン草敷グラタン	700円
伊勢海老のクリーム合えチーズ焼	3,000円

CHARCOAL BROILER

サーロインステーキ	3,000円
ハムステーキ	1,500円
グリルチキン	700円

テンダーロインステーキ	3,000円
ハンバーグステーキ	700円
仔羊背肉のグリル	900円

SALAD

ハートレタス	400円
トスサラダ	400円

スライストマト	400円
---------	------

ENTREE

ウィーン風仔牛肉のカツレツ (バターソース)	800円
フランクフルトソーセージ サワークラウト	750円
牛舌肉の煮込み	1,000円
ジャリアビンスステーキ	2,300円

グリルフランクフルトソーセージ	750円
仔牛肉黄金焼	800円
ビーフソテーハンガリー風	900円
牛肉ストロガノフ風	900円
チキンソテーイタリー風 スペゲッティー添え	700円

SANDWICH, SPAGHETTI and RICE

取合せサンドイッチ	700円
アラスカ風スパゲッティ	600円
ビーフカレーライス	650円

スパゲッティミートソース	600円
チキンカレーライス	600円
ピラフ(チキン・海老)	600円

DESSERT

アイスクリーム(バニラ・グリーンティ)	150円
コーヒー	120円
小コーヒー	60円

シャーベット	150円
紅茶	120円
プリン	150円

ラウンジメニュー

トースト.....150円

■ 酒類のおつまみとして次のものを用意しております。値段は200円~700円です。

ポテトチップ 品川巻 ミックスナッツ 骨せん 各種チーズ オイルサーデン
スライスオニオン ドイツ風ソーセージ シューマイ ピザパイ

■ また、日替わりで和風のおつまみも5~10品程度用意しております。値段は300円~500円です。



写真部

ノロダム・シアヌーク民主カンボジア大統領の会見は、六月二日(土)午前十時三十分から、クラブ記者会見室で行われた。ご本人の希望で二度の時間延長、食事もとらず約三時間の「シアヌーク節」が続いた。

写真 栗田 格
(ガンマプレス東京支局長)

人物・顔・象徴

一人の人間でもいろんな顔を持っている。笑顔、憂い顔、よそよそきの顔……心得顔とか、得意顔とかいったのもある。ないのは素顔だけ。どれが自分の本当の素顔かわかっている人はいない。顔は他者から識別してもらおうための標識に過ぎぬのだろうか。だが他者にとっては、人の顔はその変化の総和の中で相手人間の象徴となる。奇妙なことは、動きの中では全く同じ人間を他者に示すこの表情が、ひとたび固定されると無数に異なったものとなってくることである。秒差ですら同一のものにはならないこの特定の固定に、もしも、モナ・リザの含蓄を持たせたとすると、写真は最高に象徴的となる。

撮影者自身に「なにか、今の彼(シアヌーク民主カンボジア大統領)の立場を表わしている表情」と思わせたこの写真もその一つ。目から上半分を隠して見れば柔らかな笑みをたたえているこの顔は下半分を覆ったとたん、みるみる深刻な憂いと問いかけで迫ってくるのである。(文・三樹精吉会員)

八月のレストラン

土曜の夜は休みます

七月同様八月の土曜の夜のレストランも休業させていただきます。

左記の日の夜は、ラウンジのスナックテーブルでお食事をさせていただくこととなりますので、ご了承願います。メニューは変更ありません。なお、お昼のレストランは通常どおりオープンします。

△夜のレストラン休業日▽

八月十一日/八月十八日/八月二十五日

宴会、会議室、レストラン予約は

(五〇三) 三七六六で

各会議室の予約、レストランのテーブルリザーブ、

新聞さん感慨深げに

「クラブ前史」を語る

○：私が外務省の情文局長のころ、外国から国、公賓などVIPがみえると、みんな外人記者クラブへ行って記者会見をする慣例になっていた。ある程度の国になればちゃんとしたナショナル・プレス・クラブがあり、外国からの賓客がそこで会見し、公式見解を発表するのがしきたりになっていた。●：ところが、日本は変則的でおかしいじゃないかというので、当時、横田さんが新聞協会の事務局長で、笠置さんがいて、会長は日経の萬さんでした

宴会の料理注文などができるだけ(五〇三)三七六六の宴会関係専用電話をご利用ください。なお、会員の呼び出しは従来通り、(五〇三)二七二二でお願

いたします。

レストランのテーブル予約について

レストランで、お客をする際はできるだけテーブル予約をしようお願いします。最大十名までの予約が可能です。

新しい会員名簿を作成中です

八月一日現在での会員名簿を作成いたします。

個人D会員、特別賛助会員の方々と、役職、住所、連絡先などの変更がありましたら、クラブ事務局の長谷川、河野(五〇三)二七二二まで、至急お知らせ願

が、日本にもナショナル・プレス・クラブをつくるべきではないかという話になりました。

○：その後、プレスセンタービルができ、形ばかりでなく事業内容もきわめて充実した日本記者クラブが今日あるわけです。

○……………●

新聞欽哉日本国際問題研究所理事長は昭和四十一年一月から四十三年四月まで外務省の情文局長。七月二十六日、シリーズ研究会「ソ連—その実態と意図」の講師として登場、記者会見室のドンチョウを背に立ち、冒頭、右記のようにクラブ誕生前史を語り、感慨深げだった。

います。

クラブ訪問者

7月4日/G・S・アイア
ル インド大使館公使

会員の著書(ご惠贈いただきました)

国際報道の危機
アメリカの新聞倫理

堀川敏雄訳
橋本正邦訳

寄贈書

午後おそい客
ヨーロッパの新聞(下)

日本エッセイストクラブ
日本新聞協会

八月の行事

3日(金) 午後2時30分~4時 プトロス・ガ
リ エジプト外務担当国務大臣記者会
見 クラブ記者会見室

7日(火) 正午~午後2時 高島益郎前ソ連大使
昼食会 クラブ宴会場

会報委員長 深谷憲一

委員 桂敬一 井出新六 斎藤吉史 安延久夫
連絡 長谷川 河野(事務局) 五〇三一二七二